

大雪溪酒造株式会社

平成26年度

■事業計画名

お米本来の香りと旨みを活かした『特別純米酒』の開発と事業化

■概要

清酒製造工程の環境改善により、国内外に高付加価値で安全性の高い特別純米酒「直汲み」を供給する。

■分類

- <対象類型> ものづくり技術
製造環境
<事業類型> 設備投資のみ

■成果

商品の高品質・高付加価値化を目指し、清酒製造工程の1つ「上槽」設備の改善導入を行った。

新たな設備により、当社が目指す「鮮度」にこだわった高付加価値商品を安定生産することが可能となり、純米酒は前年比111.2%、純米吟醸酒は前年比113.8%と2桁以上伸びており、当初の計画を上回る実績を残すことができている。今後も積極的に販促活動を行い、売り上げ増加につなげていきたい。



平成27年度

■事業計画名

高品質・高付加価値商品の安定した生産システムの構築

■概要

「量より質」を求めている消費者ニーズに応えるため、清酒製造最終工程である瓶詰め工程設備を刷新し、今以上に品質向上させた高付加価値商品の安定した生産システムを構築し、ロイヤルユーザーの獲得を目指す。

■分類

- <対象類型> ものづくり技術
製造環境
<事業類型> 高度生産性向上型
最新モデル

■成果

「量より質」を求めている消費者ニーズに応えるため、清酒製造最終工程である瓶詰め工程設備の刷新を行った。

低温殺菌後に急冷を行い、品質を保つことで今まで以上に高品質な商品をエンドユーザーに届けることが可能となり、今後の販売拡大が期待される。



好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

大雪溪酒造株式会社（池田町）

「強みを発揮しないと生き残れない」
安全・安心と酒質向上を目指して設備投資。

普通酒の酒質向上に力入れる

1898（明治31）年創業の大雪溪酒造。日本三大大雪溪のひとつが白馬岳にあることにちなんだ銘柄「大雪溪」は1953（昭和28）年、全国新酒観評会で最優秀賞に輝き、皇室献上酒にも選ばれました。



蔵元直営店「花紋大雪溪」に「大雪溪」が並ぶ

地元で親しまれる酒造りをポリシーにした同社商品の8割を普通酒が占め、県内中堅クラスの生産量を維持。その約9割が長野県内で消費されています。

清酒消費量が落ち込む中、純米酒や吟醸酒といった特定名称酒は増加傾向にあり生産に力を入れる酒蔵が多く、県内では特定名称酒比率が6割に上ります。その中で普通酒が8割という実績は、毎日飲まれる酒をよりおいしくするための同社の努力が地元で認められてきた成果ともいえます。

「普通酒の酒質向上に力を入れるとともに、より多くの消費者に届けられるようスーパー・コンビニなど大きなチャンネルでの販売にも力を入れています」と話す薄井結行専務取締役は、現在34歳。

薄井専務はこう続けます。「とはいえ世の中のニーズに応え、特定名称酒の比率をもっと高めていきたい。そのための設備投資をしようと、ものづくり補助金を申請しました」。

既存ビン詰めラインを一新

平成26年度補助金では、商品の安全・安心に問題があるとされるアルミを使った既存上槽設備（簀田式ろ過圧搾機）をアルミ不使用の新設備に更新。平成27年度補助金で瓶火入



アルミ不使用の新しい上槽設備（簀田式ろ過圧搾機）

れを自動化するパストライザーと打栓機を導入し、さらに自己資金で充填機、ラベル貼り機なども加え、既存の瓶詰めラインを一新しました。



自家精米設備

また同社では自家精米機を導入しています。原料の酒米は地元契約農家を中心に長野県内から調達していますが、共同精米では他の米と混ざってしまうためです。さらに精米後の糠を精米歩合ごとに自動で仕分けする設備も整えました。

「少子高齢化、若者のアルコール離れが続く中、安全・安心と酒質向上を図り、より多くの販売チャンネルに置いてもらえる商品づくりをしていきたい。他社にはできないアイテムをより多くのお客様に発信できる当社の強みを発揮していかないと将来生き残れないと思っています」。思い切った設備投資はこの強い危機感からでした。

同社のもうひとつのキーワードは「発信力」。

築150年の蔵元の主屋を再生し、直営店限定商品を含む同社商品を販売する蔵元直営店「花紋大雪溪」をオープン。重厚な佇まいの古民家や庭園も開放しリピーターを増やしています。英語ができるスタッフを入れ、海外の展示会にも積極的に出展しています。



大型のパストライザー



大雪溪酒造株式会社

代表 代表取締役 薄井敦行
創業 1898（明治31）年
資本金 2,000万円 従業員数 20名
本社 北安曇郡池田町会染9642-2
TEL.0261-62-3125 FAX.0261-62-2150
事業内容 清酒製造

